

貧乏唐〈びんぼうから〉うす（黒田庄町）

むかしは貧乏〈びんぼう〉な百姓〈ひやくしょう〉が多く、米や麦を上屋〈じょうや〉（ざいさんもち）から借〈か〉りて食〈た〉べる家が少なくなかったようです。唐〈から〉うすはそれをよく知っていたようで、米や麦をつき始〈はじ〉めると、きまって、いつもこんなことをいったものです。

「カッタンコ、カッタンコ、カッタンコ。」と、始〈はじ〉めのうちはそう問〈と〉いかけてきたものです。

「借〈か〉ったんじゃないわい、買〈こ〉うてきたんじゃないわい！」と答〈こた〉えると、

「ゴショコ、ゴショコ、ゴショコ。」とまた何〈なん〉べんもあざけりながら問いかけてくるので、

「五升〈ごしょう〉じゃないわい、一斗〈いっと〉じゃわい。」というと、こんどは、

「キイトカッタンコ、キイトカッタンコ。」と、だめをおすように何べんもひつこくいうので、こちら腹〈はら〉がたってきて、

「きっと、買〈か〉ったんじゃないわい。」と、どなると米がつけたものです。

この「キイト」というのは、唐うすの油〈あぶら〉ぎれの音〈おと〉です。